

CONTENTS

- 2... 特集 末梢血幹細胞提供は 骨髓提供よりも負担が少ないの?
- 4... 末梢血幹細胞移植開始後の課題と今後の展望
- 5... 3回目の手紙
- 6... 日本骨髓バンクの現状/トピックス
- 7... 登録内容変更のお願い/骨髓データセンター事業の運営体制が変わりました
- 8... コーディネーター養成研修会受講者募集のお知らせ/プレゼント/募金のお願い

■日本骨髓バンクの現状 ※2012年5月末現在



INTERVIEW

「はじめて知りました。

骨髓ドナー登録が

18歳からということを」

今年度のACジャパンによる骨髓バンク支援キャンペーンは7月から新シリーズが始まります。ご出演は今年18歳になられた川島海荷さん。

撮影は東京近郊の大学キャンパス。実生活でも大学に入学されたばかりの川島さんが、骨髓バンクをレポートしているという作品です。

「初めて知りました。骨髓ドナー登録が18歳からできるということ、私たちがこうしている今も、白血病などの病気と闘っている人がたくさんいること」と視聴者に語りかけます。

撮影終了後に川島さんにお話を伺いました。

■骨髓バンクのことはご存知でしたか?

「知っていましたが、ドナー登録は、大人がするものというイメージがあり、登録は20歳からだと思っていました。私自身も今回18歳からドナー登録できると初めて知りました」

■大人になってできることというお話が出ましたが…

「私の同級生には既に社会人となっている友だちもいて、私より大人に見えて頼もしく感じます。私も今年大学に入って高校との違いを感じています。たとえば授業は自分で自由に選択できますが、それも責任が伴うことに気づきました。責任をもって行動するということが大人なのだと思えます。4月にNHKで放送された『あつこと僕



らが生きた夏』というテレビドラマでは、がんとう高校生役に挑戦しました。実際にいらした方、しかもご病気で亡くなった方を演じるのは、大変なプレッシャーでした。それでも二日一日を一生懸命生き、最後まで希望を捨てないあつこちゃんの諦めない気持ちを私なりに表現することができ、一歩大人の階段をのぼれたように感じています」

■女優さんとして以外にもコンサート活動、そして大学生活も謳歌されているようですが、元気の秘訣は何でしょうか?

「健康管理はしっかりするようにしています。高校時代は風邪を引いたことはなかったです。冬はゆつくりお風呂に入り体を温めるようにしています。食事は栄養のバランスを考え、野菜を多くとるようにしています。朝食を抜くようなこともありませんし、自分で料理することもあります。それから睡眠を十分とること。理想は7時間とりたいところですがなかなか難しいので、空き時間を有効に使っています。特技はどこでも眠れること、おかげで足りない睡眠時間を補うことができます」

■最後に骨髓バンクについて

「18歳になったばかりの私ですが、骨髓バンクドナー登録の推進に少しでも協力できればうれしいです」と笑顔で答えていただきました。

川島 海荷さん

Umika ● Kawashima

1994年、埼玉県生まれ。2006年に女優としてデビュー。NHK土曜ドラマスペシャル「あつこと僕らが生きた夏」で主演。TBS「ババドル!」出演。ガールズユニット「9nine」のメンバーとしても活動。

末梢血幹細胞提供は 骨髄提供よりも負担が少ないの？

2010年10月から末梢血幹細胞移植が導入され、骨髄提供より負担が少ないと思われている方も多いかもしれませんが、総合的には、ドナーの負担に差はないとされていますが、この特集でプロセスの違いについて比較します。

通知



患者さんとHLAが適合すると提供意思を確認する書類が送付される。

確認検査



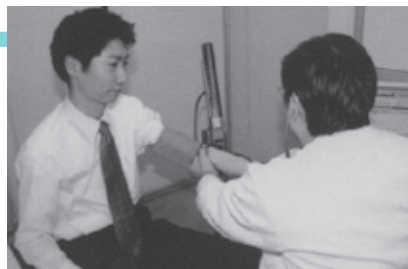
コーディネーターからの説明と医師の問診の後、提供意思に変わりなければ健康状態を調べるために採血を行う。

最終同意



ドナーに選ばれると、提供についてさらに詳しく説明を聞く。提供を希望する場合はご家族を交えて最終同意書にサインをする。

健康診断



提供約1カ月前に病院で健康診断を行い、安全な採取に備える。

骨髄移植と末梢血幹細胞移植の比較

造血幹細胞移植には、骨髄移植・末梢血幹細胞移植・さい帯血移植の3種類があります。このうち、日本の骨髄バンクでは骨髄移植と末梢血幹細胞移植のコーディネートを行っています。患者さんが、点滴で移植する方法は同じですが、それぞれに長所、短所があります。主治医は患者さんにとって、どちらの方法がふさわしいかを考慮し、どちらの方法にするか選びます。ドナーの立場でもそれぞれ長所、短所がありますが、総合的にはドナーの負担に差はないとされています。

骨髄提供の場合



自己血採血



骨髄採取後の貧血を軽減するため採取1～3週間前に血液を通常400～800mL採血・保存する。



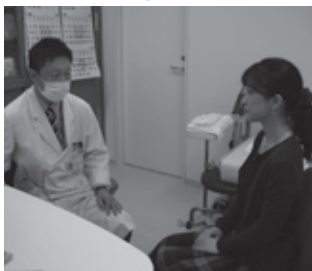
末梢血幹細胞提供の場合



入院

現在注射は、通院ではなく、入院で行われている。

今のところドナーには入院していただき、通院は行われていません。



健康チェックと説明を受ける。

末梢血幹細胞移植

自己血採血や全身麻酔下での手術が不要

G-CSFの副作用(骨の痛み、頭痛、関節痛等)

採取中の合併症

採取による血小板減少

G-CSF投与後の長期的(数十年以上)安全性が不明
進行期白血病感染症がある患者、高齢者におけるミニ移植において選択される傾向あり

骨髄移植と比べて①造血回復が早い②GVL^(※1)効果が
増強される可能性がある③免疫回復が早い可能性
がある

骨髄移植と比べて①急性GVHD^(※2)がわずかに増加
する可能性がある②慢性GVHDが増加する



入院

2日目



全身麻酔



通常採取1~2日前に入院し、健康チェックと説明を受ける。

3日目



骨髄採取



手術室で仰向けになり、気管内挿管による全身麻酔を行う。

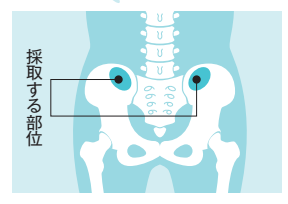
うつ伏せの状態で腸骨(腰の骨)に穿刺針を刺して骨髄液を吸引する。

4日目



退院

採取は約2時間で終わる。



TOTAL 通常 3泊4日

提供後、2~3日で退院。

●骨髄提供に伴い起こりうる合併症

痛み	採取傷が痛むことがあるが、痛みには個人差がある。(1~7日間残ったという例が多く、まれに1カ月以上残った例もある)
諸症状	採取後の発熱、のどの痛み、吐き気、倦怠感(1~2日で回復)
採取後	少し針のあとが残る場合もある(通常3~6カ月で消える)



注射 (G-CSF)

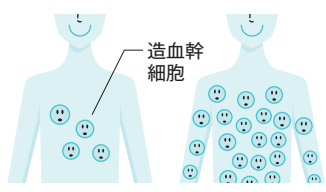
5日目



末梢血幹細胞採取



1日1回または2回、毎日(4~6日間)注射する。骨の痛み(腰痛、背部痛など)の副作用が出る場合がある。G-CSFを注射すると、白血球が増えて、本来骨髄に存在する造血幹細胞が身体を流れている血液に流れ出す。



6日目



退院

腕※に針を刺し、専用の機器(血液成分分離装置)で遠心分離し、造血幹細胞だけを取り出す。

※採取できない場合は足の付け根の血管から採取を行う



採取は約3~4時間で終わる。採取した細胞数が不十分な場合は、翌日2回目採取をする。

TOTAL 通常 5泊6日



提供後、1~3日で退院。

当面は入院となります!

●末梢血幹細胞提供に伴い起こりうる合併症

注射による諸症状	骨痛(腰痛、関節痛等)、倦怠感、頭痛、胸痛、不眠、食欲不振、悪心・嘔吐、動悸、発疹(痛みは鎮痛剤で消失)
採取中の諸症状	抗凝固剤の投与による手足のしびれ、口の周りのしびれ(カルシウム剤投与で改善)
採取後	血小板の減少、採取部が青くなる場合がある(1~3週間で消失)

●骨髄移植と末梢血幹細胞移植の長所と短所

		骨髄移植
ドナーの立場から	長所	G-CSFの注射やアフターケアが不要
	短所	全身麻酔による副作用 採取部の痛み、感染、出血 貧血予防のため自己血採血を要することが多い
患者の立場から	長所	再生不良性貧血、小児患者に選択される傾向がある
	短所	ドナーの自己血採血の必要があり、末梢血幹細胞移植と比べてコーディネート期間が長くなる可能性がある

※1 ドナーのリンパ球が白血病細胞を攻撃する効果
※2 ドナーのリンパ球が患者の身体を攻撃する病気の
神田 善伸著「インフォームドコンセントのための図説シリーズ」

●末梢血幹細胞提供ドナーの条件

1 患者さんとHLA型が遺伝子レベルで全て適合していること

2 末梢血幹細胞採取認定施設に通院が可能なおこと

末梢血幹細胞を採取するためには、G-CSFを1日1回または2回、4~6日間注射します。「注射は通院または入院で行う」と説明していますが、当面は入院で行われ、ドナーには6泊程度の入院をしていただきます。

また、安全かつ確実にを行うためドナーの条件を設けています。現在は、入院して注射を行っていますが、「採取施設に通院が可能なおこと」という条件があります。G-CSFを通院で投与している期間中に、ドナーに何らかの健康上の問題が現れた場合、速やかに対応できるようにするためです。また、末梢血幹細胞採取による副作用はG-CSF投与後、約1カ月以内に多く報告されているため、採取後の不測の事態に備えて、ドナーがいつでも採取施設に行けるよう、この条件を設けています。

ただし、この条件については、事例を重ねてドナーの安全性を検証し、再検討される可能性があります。

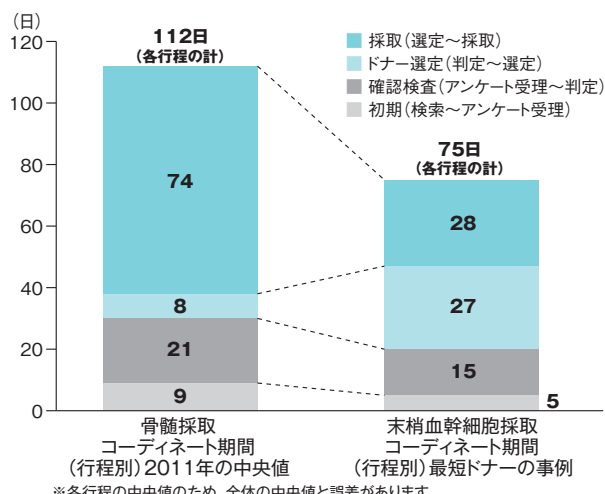


末梢血幹細胞移植開始後の課題と今後の展望

末梢血幹細胞移植(以下PBSCT)は、採取前にドナーの自己血採血の必要がないことや採取に手術室を使用する必要がないことから、コーディネーター期間の短縮が期待されています。

2011年度の骨髄採取のコーディネーター期間121日(中央値)に比較すると、本年5月末までに実施されたPBSCT 4例のコーディネーター開始から採取までの期間は、75日から119日となっています。大きな特徴としては、選定から採取の期間が大幅に短くなっている点です。

2011年10月に対象ドナーに対する「骨髄提供の経験あり」という条件を撤廃し、移植数拡大を図ってきましたが、4例の実施に留まっています。



Interview インタビュー



独立行政法人
国立がん研究センター中央病院
血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
福田 隆浩 先生

私たちの病院ではミニ移植を行うことが多く、それに関してはPBSCTの方が骨髄移植よりもはるかに有利です。ミニ移植は、高齢者に適しており、移植前に投与する抗がん剤や放射線の量が少ないことが特徴ですが、移植した細胞が生着(※1)しないことがあります。しかし、PBSCTの場合は、細胞数が多いため生着しやすいという利点があります。また、ドナーの免疫力で白血病等の病気をやっつけるのですが、それを担うリンパ球(※2)をPBSCTの方がはるかにたくさん輸注することができます。このようにことから患者主治医としては、骨髄バンクを介したPBSCTの必要性を強く感じています。

導入してから1年半が経ちますが、今まで通りやり慣れている骨髄移植の方がよいと考えている医師もいると思いますし、最初は他の施設の様子を見ながら検討されているところもあるでしょう。

また、骨髄バンクからのPBSCTドナーの条件になっている「HLA型が全てマッチするドナー」がいない患者さんも多いため、1座不一致のドナーまで可能となれば、PBSCTが増えくると思います。非血縁者間のPBSCTでは慢性GVHD(※3)が強く出る傾向がありますが、免疫抑制剤の工夫等でGVHD予防することで、対応が可能だと考えています。もっとPBSCTが浸透していけば、コーディネーター期間の短縮につながり、今後確実に増えてくると思います。

施設認定条件である「造血幹細胞の数が測定できる体制が確立されていること」がなかなか難しく、血縁者間でPBSCTをやっている施設でも検査は外注しているところもあります。こういった細胞数の測定やドナーからの採取については、成分献血の環境が整っている日本赤十字社の協力を仰ぐことができれば、さらなる飛躍が期待されるのではないのでしょうか。

末梢血幹細胞移植が増えない要因

●認定施設

5月末現在、認定施設は全国で36(骨髄は178)施設です。非血縁者間の末梢血幹細胞採取では、ドナーが採取施設に通院可能であることが条件とされています。これは、GVHD(※3)の急な体調変化等があった場合に迅速に対応するためです。認定施設があるのは19都道府県です。認定施設が認定申請できない理由としては、体制が整わないこと(医師のマンパワー不足、末梢血幹細胞採取当日中に造血幹細胞測定ができない、幹細胞測定装置が高額であることなどが主な要因です。

●採取中は医師が常時監視

非血縁者間の末梢血幹細胞採取においては、ドナーの安全を重視し、採取中は医師が常時監視することとされています。採取は1回3〜4時間程度を要するため、医師の負担が大きくなっています。

●今後の展望

アメリカや韓国の骨髄バンクではPBSCT導入から実施拡大までに3〜5年を要したそうです。日本においては、まだ実施数が少ないため、今

後、実績を重ねてドナーの安全性を検証し、対象となるドナーの条件や移植の条件などを再検討していきたいと考えています。

財団ではPBSCT本格稼働に向け、昨年4月からコーディネーター支援システムの全面改修に取り組み、本年6月稼働したところです。これにより骨髄と同様、各地区におけるドナーコーディネーター実施体制が整いました。今後、非血縁者間のPBSCTが増加し、コーディネーター期間が短縮されてより多くの患者さんに移植のチャンスが提供できるよう、前述の課題に対しても継続的に取り組んでまいります。

北海道大学病院	名古屋大学医学部附属病院
札幌北極病院	富山県立中央病院
札幌医科大学附属病院	三重大学医学部附属病院
福島県立医科大学附属病院	大阪市立大学医学部附属病院
秋田大学医学部附属病院	大阪市立総合医療センター
東北大学病院	医療法人社団 神鋼会神鋼病院
青森県立中央病院	神戸大学医学部附属病院
東京都立駒込病院	公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院
慶應義塾大学病院	和歌山県立医科大学附属病院
東海大学医学部附属病院	社会医療法人 生長会 府中病院
神奈川県立がんセンター	財団法人 倉敷中央病院
日本赤十字社医療センター	岡山大学病院
国立がん研究センター中央病院	高知大学医学部附属病院
東京慈恵会医科大学附属病院	川崎医科大学附属病院
群馬大学医学部附属病院	鳥根県立中央病院
日本大学医学部附属板橋病院	九州大学病院
名古屋第一赤十字病院	久留米大学病院
安城更生病院	大分県立病院

提供してくれたあなたへ

骨髄バンクを通じて移植を受けた患者さんとドナーさんの手紙のやりとりは、移植後1年以内で2往復までとされているため、「3回目の手紙」は出すことができません。お互いの相手へはお届けすることができませんが、この骨髄バンクニュース紙面にて、お伝えさせていただきたいと思えます。

差出人 4歳の時に骨髄移植を受けた

豊永 由希恵さん



■私のドナーさんへ

こんにちは、お元気ですか？ドナーさんは今何をしていますか？今私は、私の夢に向けて大学生活を送っています。

高1の時に、「2歳で白血病になって、4歳で骨髄移植を受けていた」ことを知ってから、私はドナーさんに感謝の気持ちを直接伝えて伝えたいと思いつきました。骨髄バンクを通してのドナーさんには、直接会えないことを知っていましたが、今回「3回目の手紙」があることを知り、手紙を書くことにしました。

去年、骨髄バンクは20周年を迎えました。これも骨髄バンクができた頃に、私のドナーさんが登録し、支えてくださったからです。

しかし私が移植を受けた当時は、い頃で骨髄バンクに関する情報も少なく不安がたたくさ

んあったと思います。そんな状況の中、何故あなたはドナー登録をされたのですか？

何処かにいる誰かのために勇気を出したの、は、どういう想いや決心があったのでしょうか？今の私には知ることができ

ません。私にはドナーさんと同じ血液が流れています。同じ血液が流れていることで私にとって一番近い存在であると思っている反面、直接ドナーさんへ感謝の気持ちを伝えることができず一番遠い存在の様に感じています。

ドナーさんは御存知だったでしょうか。私は母から聞いたのですが、当初の移植予定は翌年で、化学療法を続けてきた4歳の私は年を越してからの移植は体力的に難しいと医者から言われていたそうです。年内に生きるチャンスをプレゼントしていただけたことを、とても嬉しく感じました。12月半ばに移植を受け、下旬にはドナーさんの骨髄が生着したそうです。低身長などの後遺症はありますが、重大なGVHDを発症することなく今に至っています。私は、すれ違った方を私のドナーさんだったかもしれない、ドナーさんと何処かで繋がりのある人だったかもしれないと思いい、知り合ったみんなに「ありがとう」と心の中で伝えていきます。

私は今、間接的にでも感謝の気持ちが伝えられたらと願い、私の夢である植物に携わる仕事で医学的に世の中に貢献していくことで感謝の意を表したい、と考えています。

これから先、後遺症も含めて生きていく中でいろいろな事がまっていると思います。私は、骨髄移植を受け今生きている私だからこそ経験できる喜び・悲しみ・幸せなど、どんな経験も大切に生きていきます。ドナーさんの勇気と行動に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

急性白血病治療後の生活の質に関する横断的研究のお知らせ

現在、急性白血病で治療を受けられた患者さんに対して、治療後の生活の質(Quality of Life:QOL)の調査・研究が行われています。

この研究は、治療後の患者さんの状況を医療者側、患者側で共有し、治療の一環として患者さんへのサポート体制を整えることや、将来治療を受ける患者さんへの治療選択の重要な情報源とすることなどを目的に進められています。

研究者からのお知らせについては、

詳細は財団ホームページ HOME>お知らせ をご参照ください。

<http://www.jmdp.or.jp/information/>

「3回目の手紙」を募集しています。

骨髄移植をした後、なんらかの事情で手紙が書けなかった、1年以上経ってあらためて思ったことを伝えたいという方、お手紙を書いてみませんか？ドナーズネットや骨髄バンクニュースに掲載させていただきます。

お手紙と一緒に連絡の取れるご住所・電話番号・お名前・メールアドレス、移植時期および簡単なプロフィールを明記の上、下記にご郵送ください。お手紙、お待ちしております。

[宛先]〒101-0054

東京都千代田区神田錦町3丁目19番地 廣瀬第2ビル7階

(公財)骨髄移植推進財団 広報渉外部「3回目の手紙」係

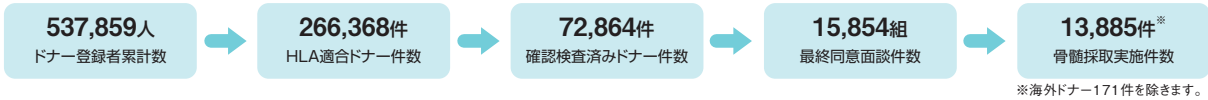
※お送りいただいたお手紙は相手の方に個別にお渡しすることはできませんので、予めご了承ください。

日本骨髄バンクの現状

2012年3月末現在

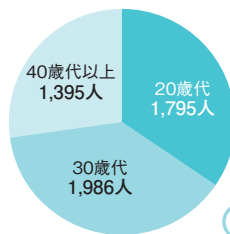
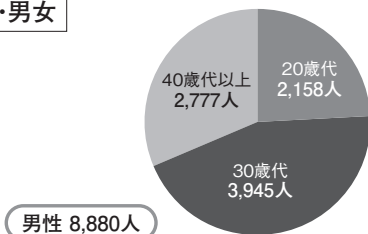
非血縁者間骨髄移植の状況

ドナーのコーディネート状況 (1992年から2012年3月までの累計数)



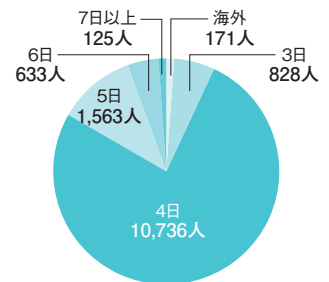
提供者の状況

年齢・男女



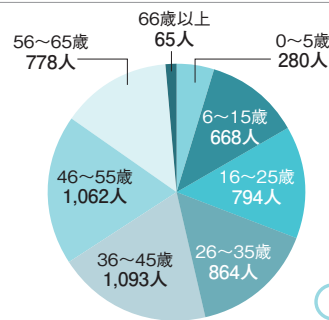
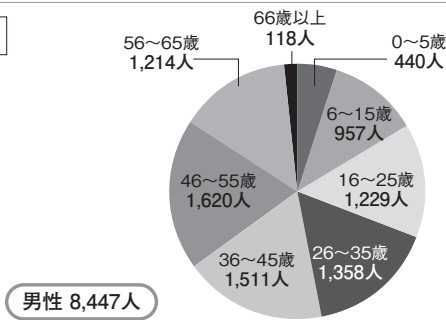
入院日数

14,056件



移植患者の状況

年齢・男女



14,051件

トピックス

Topics

「骨髄バンク・さい帯血バンク 合同全国大会in仙台」開催のお知らせ

今年度の全国大会は宮城県仙台市にて、日本さい帯血バンクネットワークと合同で開催します。全国大会の共催は初めての試みですが、ともに造血細胞移植を必要とする患者さんのためにというテーマで、より連携を強めていかなければならない両バンクが今後の「あるべき姿」を考えます。東日本大震災後の活動報告、医療関係者や患者さんをお交えてのパネルディスカッションのほか、ゲストを迎えてのアラクションも予定しています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

【日程】9月15日(土) 13:30~17:00

【会場】仙台市太白区文化センター(仙台市太白区長町5-3-2)

「楽楽(らら)ホール」

※参加無料

島根県浜田市、益田市でも骨髄ドナーへの助成制度スタート

4月より、島根県浜田市と益田市でも骨髄ドナーのための助成制度が導入されました。内容は昨年全国初の導入に踏み切った新潟県加茂市と同じ、「入院・通院1日当たり2万円を、7日を上限に支給する」というものです。なお、昨年福原慎太郎市長が骨髄提供をされた益田市の制度では、ドナーの事業所に対して1日当たり1万円(上限7万円)の奨励金が支払われます。

ACジャパンの新しい広告キャンペーンが始まりました。

ACジャパンの新しい骨髄バンク支援広告キャンペーンが、7月1日にスタートしました。すでにTVやラジオ、駅貼りポスターなどでご覧になった方もいるかと思いますが、今回の出演は表紙を飾ってくれた女優・川島海荷さんです。ご自身も18歳である川島さんが、「18歳からのドナー登録」を愛らしい笑顔で訴えかけるこのキャンペーン。特に若い方にとっての「骨髄バンク」がより身近なものになれば、と期待が高まります。なお、このポスターを掲示してドナー登録を呼びかけてくださるという方は、当財団フリーダイヤル(0120-445-445)までご連絡をお願いします。

日本生命が末梢血幹細胞の提供者へ「ドナー給付」を開始

平成24年4月2日、日本生命保険相互会社は保険加入者が骨髄・末梢血幹細胞いずれかの提供者ドナーとなった場合に給付を行う保険商品の販売を開始しました。これまでも善意のドナーをサポートすべく、10社以上の生保会社・損保会社・共済互助会が骨髄ドナーへの給付を行う個人保険を販売していますが、末梢血幹細胞ドナーに対しての給付保障は同社が初めてとなります。<http://www.nissay.co.jp/keiyaku/tetsuzuki/hokenkin/donor.pdf>

ドナーの皆さまへ

登録内容変更の手続きをお願いします!

お引越しがされた場合等に、住所等の変更手続きをしていただかないと、適合する患者さんが見つかってご本人に連絡が取れず、コーディネートが終了となる場合が少なくありません。

登録内容変更はいずれかの方法です!

①中央骨髄データセンターのウェブサイトから



[PC版]

- 1) 中央骨髄データセンターのホームページを開いて (<http://www.bmdc.jrc.or.jp/>)、トップページの中央左にある「登録内容変更」のボタンを押して、「骨髄バンクドナー登録情報」のページを開く。
- 2) 同封のはがきに記載しているアクセスコードと生年月日およびメールアドレスを入力し、ログイン。
- 3) 入力されたメールアドレスに登録要件修正のためのワンタイムパスワード(1回限り有効)と、登録要件修正のための専用ページのURLが返信されます。

[携帯版]

携帯電話からも変更できます。

右のQRコードまたは以下のURLよりアクセスしてください。

[URL] <http://trk.bmdc.jrc.or.jp/k/>



QRコード

②はがきから

必要事項を記入し、ご郵送ください。

ウェブサイトからの変更には、このアクセスコードが必要です。保留のときはその期間も必ず書いてください。

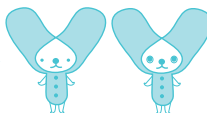
*保留について

なんらかの理由で、しばらく提供を希望しないときは、登録を保留にできます。保留期間を明記してください。保留期間中に保留の解除を希望するときは保留解除にチェックを入れてください。

*登録取消について

今後も提供ができる見通しがたないときは、登録の取り消しをお願いします。

骨髄バンクのフリーダイヤルでは、登録内容の変更手続きは受付けていません。ご注意ください。



平成24年4月から日本赤十字社の骨髄データセンター事業の運営体制が変わりました

日本赤十字社では、平成24年4月から、血液事業の広域運営体制移行に伴い、骨髄データセンター事業についても、これまでの各都道府県単位の事業運営体制から、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行しました。

■登録情報に関するお問い合わせ先

- ドナー登録者の個人情報、これまで、各都道府県の地域骨髄データセンターで登録管理しておりましたが、平成24年4月から、新たに設置されたブロック骨髄データセンターにおいて行っております。
- 登録情報に関するお問い合わせは、最寄りのブロック骨髄データセンターまでご連絡をお願いします。ブロック骨髄データセンターの所在地や電話番号は下記のとおりです。

■登録受付窓口はこれまでと変更ありません

- ドナー登録希望者の登録受付及び検体の採取は、これまで同様、地域骨髄データセンターが実施します。ドナー登録を希望される方は、最寄りの献血ルーム等の登録受付窓口にお越しください。

■ブロック骨髄データセンター一覧(平成24年4月現在)

※中央骨髄データセンターのホームページにも掲載しています

北海道	北海道ブロック骨髄データセンター	〒063-0002 北海道札幌市西区山の手2条2丁目3-37 (管轄地域 北海道)	☎011-613-6683
東北	東北ブロック骨髄データセンター	〒981-3206 宮城県仙台市泉区明通2丁目6-1 (管轄地域 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	☎022-354-7083
関東甲信越	関東甲信越ブロック骨髄データセンター	〒135-8639 東京都江東区辰巳2丁目1-67 (管轄地域 千葉県、東京都、神奈川県、山梨県)	☎03-5534-7534
	関東甲信越ブロック埼玉骨髄データセンター	〒355-0071 埼玉県東松山市新郷493-1 (管轄地域 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、長野県)	☎0493-59-8402
東海北陸	東海北陸ブロック骨髄データセンター	〒489-8585 愛知県瀬戸市南山口町539-3 (管轄地域 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)	☎0561-85-4298
	東海北陸ブロック石川骨髄データセンター	〒920-8201 石川県金沢市鞍月東1丁目1 (管轄地域 富山県、石川県、福井県)	☎076-237-5581
近畿	近畿ブロック骨髄データセンター	〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目5-17 (管轄地域 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	☎072-643-1173
中国・四国	中四国ブロック骨髄データセンター	〒730-0052 広島県広島市中区千田町2丁目5-64 (管轄地域 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	☎082-241-1614
九州	九州ブロック骨髄データセンター	〒839-0801 福岡県久留米市宮ノ陣3丁目4-12 (管轄地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)	☎0942-31-8974

コーディネーター養成研修会受講者募集のお知らせ

骨髄移植推進財団では、コーディネーター養成研修会受講者を募集します。

コーディネーター養成研修会を受講後、コーディネーターとしての認定を受け、当財団からの委嘱に基づき活動していただくことになります。

詳細はホームページ(<http://www.jmdp.or.jp/>)をご覧ください。

●募集地域(下記の地域で活動可能な方)

- 北海道：札幌、旭川、道東
- 東北：青森、宮城、山形、福島
- 中部：静岡、三重、石川、福井
- 九州：福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●募集人数 各地域とも若干名

●応募資格

- ・原則25歳以上の健康な方
- ・骨髄バンク事業を理解し、熱意を持ってコーディネーター業務に時間と労力を割くことができる方
- ・ただし骨髄または末梢血幹細胞移植のため登録中の患者さんやその家族、特定の患者の支援活動をしている方は除く

●研修期間 2012年8月下旬～2012年12月(予定)

*8月24日(金)～8月25日(土)、東京で開講式・集合研修予定

●研修内容 各地区事務局での集合研修(4、5回)、近隣の指定病院での実地研修(10回以上)など。中間試験、修了試験あり。

●受講料(教材費を含む) 無料

*交通費：実地研修および地区事務局研修は財団負担
東京での開講式(宿泊含む)は受講生負担(補助あり)

●応募方法

履歴書(写真貼付)、職務経歴書、受講動機(400字原稿用紙1枚)を添えて下記までお申込みください。なお、応募書類は返却しません。(応募に関する個人情報は、選考手続きおよび今後の研修のためにのみ使用し、その他の目的で使用することはありません)

●応募締め切り 2012年7月27日(金)必着

●応募先(問い合わせ先)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19
廣瀬第2ビル7階
(公財)骨髄移植推進財団
「コーディネーター養成研修会」係
TEL 03-5280-2200

募金のお願い

骨髄バンクの運営は、国庫補助金などの公的資金のほか、患者さんの負担金や皆さまからのご寄付によって成り立っています。当財団は公益財団法人に認定されているため、ご寄付をいただくと税制上の優遇措置が受けられます。

皆さまの善意をお寄せください

- 1. 郵便振替**
郵便振込用紙で、最寄りの郵便局からお振込みをお願いします。手数料は当財団負担となります。
 - 2. 銀行振込**
① ☎0120-377-465 平日 9:00～17:30 までお電話ください。
みずほ銀行本支店間での手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。
② 楽天銀行(旧イーバンク銀行)
http://www.jmdp.or.jp/help_us/howto/bank.html
24時間入出金可能な楽天銀行をご利用いただけます(手数料無料)。
なお、事前に口座の開設が必要です。
 - 3. お電話で募金(クレジットカード)**
ご使用になるカードをお手元にご用意のうえ、
☎0120-377-465 平日 9:00～17:30まで
お名前・ご住所・電話番号・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。
 - 4. インターネットから募金(クレジットカード、ポイント募金など)**
http://www.jmdp.or.jp/help_us/ または
 - 5. 自動口座引き落としによるご寄付**
詳細は資料をご送付します。
☎0120-377-465 平日 9:00～17:30 までお電話ください。
- 骨髄バンク提携クレジットカードのご案内**
クレジットカードによるお支払額の一部が骨髄バンクに寄付される骨髄バンクサポーターカード。寄付金なしの一般会員と、毎年3,000円を寄付するサポーター会員、毎年1万円寄付する特別会員があります。骨髄バンクカードには、この3種類のNICOSカードのほか、各VISA付きカードがあります。
入会申込書を ☎0120-377-465 平日9:00～17:30 までご請求ください。

□個人寄付者の方へ **※新しく税額控除制度が適用されます。**
これまでの「所得控除制度」に加え、税率に関係なく税額から寄付金の一定額を直接控除できる「税額控除制度」が新たに適用されます。寄付者は2つの寄付除制度のうち、より有利な方法を選択することができるようになります。

- ① 所得控除を選択する場合(寄付金合計(※1)－2000円)×所得税率(※2)＝控除額
- ② 税額控除を選択する場合(寄付金合計(※1)×40%)＝控除額(※3)
- *1 所得額の40%が上限 *2 課税所得により5%～40% *3 所得税額の25%が上限

Present

クイズに答えて賞品をGET!! Q.ACの骨髄バンク支援コマーシャル、 今年度の出演は 川島○荷さん!

○の中に入る漢字を当ててください。

A賞



3名様

読売巨人軍
原監督
サイン入り色紙

B賞



4名様

C賞

5名様



読売巨人軍選手(杉内投手、
越智投手、東野投手、橋本選手)
サイン入りボール ※選手は選べません

阪神タイガース
藤川球児投手
サイン入り色紙

応募締切 **2012年8月10日(金)**

応募方法

【PC】 <http://www.donorsnet.jp/news40/>にアクセスし、応募フォームに必要事項を記入の上、お申込みください。

【携帯】 送り先のメールアドレスに present@jmdp.or.jp を入力し、件名を「プレゼント応募」として必要事項(①クイズの答え、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤名前、⑥年齢、⑦何賞を希望するか、⑧ご意見・ご感想)を明記の上、送信ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。